
六人は迷い込む

カレント

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

六人は迷い込む

【Nコード】

N9743F

【作者名】

カレント

【あらすじ】

結構ありがちな異世界迷い込みファンタジー。とある六人が異世界に落ちる。彼らは何を思い、どう生きるのか。

プロローグ

私は、いつも通りに玄関を出た。

「今日は・・・おお。見事に普通の時間割だな」

いつも通りに歩いた。

「おはようございます!」

「おっ、おはよう。最近早いな」

「やべえ、遅刻・・・ってうおっ!？」

「・・・時計を20分ずらしていたのか？」

「何で数学嫌いは多いんだろう」

「・・・まあ、そうだな」

「おはよー。最近調子どうだい？」

「可もなく、不可もなく、だな」

「おはよう。相変わらず、なかなか隙がないよな」
「ほっとけ」

(なっ)

それを感じた数瞬後、意識は途切れた。

プロローグ（後書き）

とりあえず書いてみた。

シリアスな気もするが、この後はノリで突き進もうかと思う。

1、目が覚めたら(1)

目が覚めると、そこは森であった。

「・・・ありがちな迷い込み小説か・・・？」

とにかく、状況を整理しよう。

- ・登校途中に突如落ちるような感覚の後、意識を失う
- ・携帯電話は圏外。時刻は13:28、日付は変わっていない
- ・ここはどこかの森である
- ・およそ6時間以内に到着できる地点
- ・どうやら何も盗られていないらしい

拉致・・・ではないな。置き去りにする意味がない。
身ぐるみ剥いで捨ててるわけでもない。

それ以前に、私が歩いていた場所は人通りが多いはずであり、誰かを攫うのは難しい。

催眠ガスを散布したにしては意識を失うのが早すぎる。

背後から手刀を受けた・・・あるかもしれない　　が、あの瞬間、
足場が消えたような感覚があった。となるとそれはない。

というか、「突如」「何の兆候もなく」「人間を気絶させるなんてこととは

「・・・いや、なったものはなってしまうんだ。まずは脱出策を

探そう」

パニックになっっている暇はない。
まず、持ち物を確認する。

- ・筆記用具
- ・教科書ノート類
- ・携帯電話
- ・学生証
- ・バッグ本体
- ・制服
- ・暇潰し用の本
- ・弁当
- ・ミネラルウォーター

・・・まあ、こんなものか。
とりあえず弁当とミネラルウォーターを持ってきたのは幸運だった。
少なくとも今日はしのげそうだ。

「さて、次は」

辺りを見回す。

・・・。

見たことの無い植物が多少混じっている。・・・一体ここは何処なのか、いよいよ判らなくなってきた。
・・・私はある程度、植物図鑑などを読んでいた・・・が、見たところが無い。

後は、何かの足跡らしきものが・・・サイズが異常だな。恐竜か？

少なくともこの生物に遭遇したらアウト、それぐらいは分かる。

・・・この森から脱出するなら早いほうが良い。
そう判断した私は、とりあえず足跡の方向以外で適当に進むことに
した。

1、目が覚めたら(1)(後書き)

プロローグから間隔が開いてしまいました。

2話は早めに書きます、すいません。。。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9743f/>

六人は迷い込む

2011年1月14日14時16分発行